

平成30年度

事務事業評価表 A (平成29年度の実績評価)

記入年月日  
平成 30 年 4 月 10 日

事務事業名		教育課程評価事業			事業区分		担当	
					新規/継続	継続	事務事業No.	020101000178
		政策体系上の位置付け			単独/補助	単独	所属課	090801
政策体系	総合計画の施策名	0201	学校教育の充実		主要事業		教育指導課	
	政策名	02	生きがいを育む学びのまちづくり		市長マニフェスト			
	施策名	01	学校教育の充実		未来PJ事業		グループ	教育指導グループ
	手段名	01	①教育内容の充実		合併建設計画事業			
財務会計上の位置付け					事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	単年度繰返し (平成17年度~)	
法令根拠					← 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入			
法令根拠 学校教育法、学校教育施行規則、桜川市学校学校管理規則、施行法								

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要(事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
<p>教育課程の編成と実施に係る評価を行う。具体的には、各幼小中学校より提出された教育課程編成書(様式第3, 4号)、年度末に実施する教育課程実施状況調査、及び新年度4月に提出する教育課程実施状況報告書(様式5, 6号)等、また、計画訪問等を通して、適切な教育課程が実施されたか評価する。</p>	<p>前年度末に提出される新年度の教育課程編成書が、適正に計画されているか確認する。</p> <p>また、全ての学校の計画訪問時に、学校の教育計画、取組を伺い、適正に実施されているか確認している。更に、教育課程実施状況調査においては、教育課程の細部にわたって適切に実施されているか、また、きちんと計画されているかを確認し、必要に応じて指導助言をしている。</p>

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移							
①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	31年度 (目標)	32年度 (目標)
教育課程の編成と実施に係る評価を行う。具体的には、各幼小中学校より提出された教育課程編成書、教育課程実施状況調査、及び教育課程実施状況報告書等、計画訪問等を通して、評価する。	教育課程編成書の確認・アドバイス	園・校	17.00	17.00	15.00	15.00	0.00
	教育課程実施状況報告書の評価と指導	園・校	17.00	17.00	15.00	15.00	0.00
	教育課程実施状況報告書の評価とアドバイス	園・校	17.00	17.00	15.00	15.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	31年度 (目標)	32年度 (目標)
市内の全公立幼稚園・小中学校	市内公立幼稚園・小中学校数	園・校	17.00	17.00	15.00	15.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	31年度 (目標)	32年度 (目標)
各幼稚園・小中学校が、新学習指導要領と教育委員会の規準に従って、適切な教育課程を実施しているか確認することで、適切な教育活動が実施できるようにする。	評価の結果、適切に教育課程を編成された学校数	園・校	17.00	17.00	15.00	15.00	0.00
	適切に教育課程を実施できている状況にある学校数	園・校	17.00	17.00	15.00	15.00	0.00
	最終的に適切に教育課程報告書を提出してきた学校	園・校	17.00	17.00	15.00	15.00	0.00

(3) 投入量(事業費)の推移		28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	期間限定 総投入量	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0
		使用料・手数料	千円	0	0	0
		その他	千円	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	0
	事業費計(A)	千円	0	0	0	0
人件費	正規職員従事人数	人	1.00人	1.00人	1.00人	
	述べ業務時間	時間	60.00	60.00	60.00	
	人件費計(B)	千円	176	176	176	
トータルコスト(A)+(B)		千円	176	176	176	

事業費の内訳	29年度事業費 実績(千円)			30年度事業費 予算(千円)		
		合計	0		合計	0

(4) 当該年度の実施内容	30年度の事業内容	31年度の事業内容	32年度の事業内容
<p>※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要事業</li> <li>・市長マニフェスト</li> <li>・未来PJ事業</li> <li>・合併建設計画事業</li> </ul>			

事務事業名	教育課程評価事業	事務事業No.	20101000178	所属課	教育指導課
-------	----------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	
学校教育法施行規則、桜川市立学校管理規則に、幼稚園教育要領、学習指導要領や教育委員会基準によって、教育課程の編成が義務付けされている。新しい学習指導要領が、小学校では2020年、中学校では2021年から完全実施される。どの学校も新学習指導要領の趣旨や内容の改善点を踏まえ、適切な計画及び実施がなされている。	
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?	
各学校の創意を生かした特色ある教育課程の編成、及び学校、家庭、地域が一体となった教育活動を展開するなど、保護者や地域の願いを受けとめて、一層開かれた学校づくりに努めたい。	
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	
改革改善を行う	新任教務主任だけでなくすべての教務主任対象に、分かっていることでも改めて共通理解や見直し改善を図る必要がある。そのためには研修の場を充実させていくことが大切である。

【See】 2. 評価の部 \*原則は事前評価。

評 価 項 目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 創意を生かした特色ある教育課程の編成・実施・評価により、各学校の教育目標が実現され、学校教育の充実が図られている。
有効性	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称)
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 各学校の創意を生かした特色ある教育課程の編成と教育課程実施状況報告書、年度末調査等の自己点検・自己評価による教育課程の明確化とその改善に努める。
効率性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 知・徳・体のバランスのとれた特色ある教育活動及び社会に開かれた教育課程の実現のために、さらに工夫を加えた教育活動が行われるような教育課程の編成が望まれる。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?)
公平性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名
	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 統廃合の可能性はない。
公平性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか? やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 教育課程編成書、教育課程実施状況報告書の提出が、桜川市学校管理規則に定められている。担当者ばかりでなく、教育指導課全職員が共通理解して関わることで、さらに改善充実を図ることが大切である。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正になっているか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 市内全ての学校が対象であり、同じ視点で点検、評価、指導をしている。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																								
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇨	各学校においては、PDCAマネジメントサイクルを活用し、前年度の評価をもとに実態把握をしっかりと行い、同じ内容や活動の踏襲でなく、工夫や改善が図られた計画が実施されるようにしていきたい。																								
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																								
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																								
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 計画訪問等で教育課程について助言を行うようにする。		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">成果</th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		成果		コスト			削減	維持	増加	向上					維持		○			低下				
成果		コスト																								
		削減	維持	増加																						
向上																										
維持		○																								
低下																										
		(6) 事務事業優先度評価結果																								
		成果優先度評価結果	⑧																							
		コスト削減優先度評価結果	⑥																							

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> B A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>